

テーマ エイズを含む性感染症といかに向き合うか
—大阪で1日に2人！—

日時：2010年4月3日（土） 13時～16時15分

場所：太閤園・ダイヤモンドホール（大阪市都島区）

参加者：大谷 透G、重里 國麿第6組AG、岡部 泰鑑GN、熊澤 忠躬PG、若林 紀男PG、神崎 茂PG、
橘高 又八郎第1組AG、西垣 文雄第3組AG、鈴木 洋第4組AG、青木 禎一郎第7組AG、
藤田 誠一郎第8組AG、西原 房三第3組AGE、山片 重房第4組AGE、山田 崇雄第5組AGE、
田中 壽秋第7組AGE、泉 博朗第8組AGE、四宮 孝郎地区代表幹事、
大阪RC、大阪東RC、大阪淀川RC、大阪天満橋RC、大阪東淀ちゃやまちRC、大阪城東RC、
大阪城北RC、大阪大手前RC、大阪鶴見RC、新大阪RC、大阪中之島RC
登録者数793名 当日出席者183名・会員家族9名・講師、パネリスト等RC以外来訪者10名
出席者総数202名

IM 実行委員長

高島 凱夫

（大阪中之島RC）

近年、青少年の薬物乱用、飲酒・喫煙問題と共に、「性の逸脱」、「エイズを含む性感染症の拡大」が大きな社会問題となっています。青少年を中心としたクラミジアなどの性感染症の拡大。先進国の中で、いまだに増加し続けるHIV/AIDS感染者。とりわけ、大阪においては検査機関において2日に一人の増加を示し、この割合で言うと、未検査の人を加えると1日二人の割合で増加しているだろうと言われています。これらのことが、青少年の将来、更に人類の将来にとっていかに弊害を及ぼすかをロータリークラブにおいても検討し、感染予防・感染拡大や感染者差別防止について発信、啓発を行う時期に来ていると思われれます。RIでも、特に関心の高い社会奉仕活動の中に、環境保全、識字率の向上など六項目の中にエイズ教育が掲げられ

ています。くわえて「RCは適切であれば、公的保健機関や非政府団体と協力して、エイズ教育と予防について会員及び地域社会の理解を深めるよう推奨されている。RCは、エイズへの理解を深め同時に地域で受け入れられる範囲内で慎重かつ良識を働かせながら、エイズ教育と予防プログラムに着手または支援しなければならない」と唱っています。以上のようなことから、今回のIMのテーマを決定致しました。

基調講演は、大阪でHIV/AIDSの拠点病院（大阪では、大阪市立総合医療センターと二ヶ所）である独法 国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究センター エイズ先端研究部長 HIV/AIDS先端医療センター長 白阪 琢磨先生にお話しをうかがいました。



【基調講演】

『大阪で拡がるHIV感染者—毎日2人?』
《講演要旨》

HIVとAIDSとの違い。

HIV感染症/エイズの昔のイメージと今のイメージとの違い。即ち、昔; HIV感染→細胞性免疫機構の進行性破壊→免疫不全→AIDS→死⇒性行為・針の回し打ち・母子感染→自業自得→致死の病、と言うイメージ。現在; HIV感染→慢性疾患→AIDS→多くは治り、社会復帰可能⇒医学的管理が可能な疾患。「不治の特別な病」から「コントロール可能な一般的な病」へと考え方が変わっている。

話をする・手をつなぐ・お風呂、プール・つり革・一緒にご飯を食べる・咳、クシャミ・ペット・蚊に刺される・キスなどでは感染しない⇒差別はダメ!

HIVの治療は、進行を阻止することが目的である。HIV細胞は長寿であるので、その寿命から考えると、服薬は60年以上必要。現在は、健康保険、身体障害者保険などが使えるが、1年間で治療費が約250万円、一生で総額約1億円と膨大な医療費が必要になる。しかし、内服薬の量は、研究の成果により10年前に比べ約1/10に減ってきている。

感染は「友達の輪」の様に拡がっていくので、感染予防(コンドーム使用)の教育を徹底することが必要である。

《結論》

- * HIV感染症は治療の出来る慢性感染症となった。
- * 治癒をもたらす治療法は現在ない。
- * 服薬継続は容易ではない。
- * 障害の治療費は高額(約1億円/人)。
- * AIDS発症者では死亡例がある。
- * 若者を中心にわが国でもHIVは蔓延している。

* 地域での総合的取り組みが必要

【パネルディスカッション】『HIV/エイズ感染防止・感染者差別防止を考える』

コーディネーター; 白阪 琢磨先生、パネリスト; 井藤 尚之様(大阪市学校保健会副会長)、大西 雅美様(大阪府教育委員会)、北山 翔子様(HIV陽性者)、松下 あゆみ様(府立松原高等学校、るるくめいと代表)、安達 昌弘(大阪中之島RC会員)

ここでは、先ずパネリストの方々がそれぞれの立場で、感染防止・感染者差別防止に取り組んでいるか、について発表がありました。学校での健康教育の中で、出前授業(ティーム・ティーチング)を通じて性感染症、HIV/AIDSなどについて啓発を行っている(井藤氏)、Role Play(お互いに立場を入れ替え演技をしながら学ぶ)(大西氏)、年齢の近い人が様々なことを教え合う機会(Pure Education)などで感染予防(コンドームの使い方など)について伝える(松下氏)。北山氏は、自分の経験から、様々な講演会で、中途半端な知識を持っているだけで全て知っていると錯覚することの怖さを伝えている。多くの意見が、確かな知識を得ることで、感染拡大防止・差別防止が出来る、というものでした。ロータリアンの安達氏は「RIは、現在取り組んでいるポリオ撲滅事業に負けずとも劣らないHIV/AIDS撲滅事業をすべき」との意見を述べました。フロアーからは「ある年齢になったら、検査をするシステムを作ることは無理か?」「医療費が極めて高額であることをもっと知らしめたら?」「在米中に、会社ぐるみでAIDS事業に参加した経験がある」などの質問、意見がありました。今回のIMを通じて得られた様々な知識、意見などを検討し、HIV感染者がいまだに増加しつつある大阪の中にある私たち大阪中之島RCも何らかのアクションを起こすべく研究を始める所存です。

